

ブルマン、キリマンにも比肩

# スリランカコーヒー 高品質に復活

## 熊本市のNPO法人指導

### 現地支援兼ね輸入販売

熊本市のNPO法人「日本フェアトレード委員会」（清田和之代表）が、スリランカ産コーヒー「スリパーダ」の輸入、販売を始めた。同国で栽培が途絶えたコーヒーを復活させ、生産技術の指導を重ねて商品化した。途上国の物品を適正な価格で取引するフェアトレードの取り組みだ。

清田代表が同国の農民との交流を通じ、一八六〇年代まで年間五万トンのコーヒー生産国だったことを知ったのがきっかけ。病害の発生が原因で生産され

なくなったという。清田代表らは、二〇〇四年にインド洋大津波で同国が被害を受けたことから、「募金など一時的ではない、経済的自立を促す支援が必要」と痛感。コーヒー生産を復活させようと立ち上がった。

として完熟豆の収穫や乾燥などの技術指導を進め、日本で販売できる高い品質を確保。今年初めて四百トンを輸入し、販売を実現した。十五日はジャヤンタ・パリパーナ駐日大使をはじめ、フェアトレード大使の女優アネスタ・バーネットさん、農業輸出局長らを熊本市に迎えスタートを祝った。

懇親会で清田代表は「スリランカの聖地として知られる山の名前を付けた。素晴らしい味で、ブルーマウンテンやキリマンジャロと並ぶ、世界に冠たるブランドになるだろう」とあいさつ。大使も「スリパーダはスペシャルなコーヒーだ。清田さんに感謝したい」と喜んでいった。

「スリパーダ」は二百数十万円。売り上げの一角はコーヒー生産者組合に寄付され、工場の設備投資や働く母親のための保育園設置などに使われる。同法人 ☎096(245)4545。

（峰松清子）



スリランカのフェアトレード大使、アネスタさんを囲み、コーヒー「スリパーダ」を味わう日本フェアトレード委員会のメンバー



熊本市のNPO法人日本フェアトレード委員会が輸入、販売を始めたスリランカ産フェアトレードコーヒー「スリパーダ」